

31 消防用設備等の活用状況

【関連章第8章】

事例1 「工場の屋外部分から出火し、屋外消火栓設備を活用した火災」

出火時分 12月 13時ごろ
用途等 工場 耐火造2/0 延2,000㎡
防火管理 該当選任あり 消防計画あり
被害状況 建物部分焼1棟 外壁15㎡等焼損
概要

この火災は、工場の屋外部分に置かれた合成樹脂製パレットから出火し、外壁等を焼損したものです。

出火原因は、従業員が使用したガストーチバーナの火が合成樹脂製パレットに接炎し出火したもので、従業員は接炎したことに気付かずその場を離れたため、その後延焼拡大しています。

火災は、工場付近の建築工事現場の誘導員が発見しており、騒ぎを聞きつけた同工事現場の関係者が119番通報しています。発見者は火災を発見後、同工事現場にあった粉末消火器を搬送し初期消火を実施するとともに、火災を大声で知らせ、騒ぎに気付いた工場の従業員複数名が屋外消火栓設備を活用し消火するとともに、自動火災報知設備の発信機を押下し、在館する従業員に火災を知らせ避難を促しています。

教訓等

この火災は出火箇所が屋外であったことから、工場の従業員も火災に気付かず、発見が遅れ延焼拡大に繋がりましたが、発見者の知らせを契機に、工場の防火管理者を中心に従業員一人一人が消防計画及び消防用設備等の取扱いを熟知していたことで迅速な消火活動を行い、被害を最小限に食い止めました。さらに、自動火災報知設備の発信機を早期に押下したことで工場の在館者に火災を周知し、慌てることなく避難したことで一人の負傷者も出ませんでした。

このように、従業員全員が消防計画を把握し、定期的に訓練を実施していくことが「人命の安全確保」、「被害の軽減」に繋がります。そのため、効果的な初期消火、迅速な避難誘導等ができるよう、積極的に訓練を実施し、防火管理技術の向上に努めましょう。



写真 31-1 出火箇所付近の状況



写真 31-2 使用していたガストーチバーナ